

現代語版『小説神髓』（四）

坪内逍遙 著
坂井健 訳

はじめに

『小説神髓』は、ごく簡単な擬古文で書かれているのだから、わざわざ現代語訳する必要はないし、近代文学を勉強しようとするものなら、当然、原書にあたって勉強すべきだというのは、なるほど、そのとおりだとは思うけれども、実際に、『小説神髓』を原書のまま読んで、正しく理解できる人は、大学四年生くらいでもごく少ないし、特に、この本を読んでほしいと思う大学二、三年生ではほとんど居ないといってもいい。そこで、いくらか無駄な仕事に属するかもしれないけれど、あえて『小説神髓』の現代語訳をすることにした。訳にまぢがいや不適切な表現があるかもしれない。識者の叱正を乞う。

なお、注は、日本近代文学大系『坪内逍遙集』（中村完注釈、角川書店、昭和四九年一〇月）に詳細な注があるので、ここでは、最小限にとどめた。この注には、さまざまに教えられるところがあったので、記して、感謝の意を表したい。日本近代文学大系は、『逍遙選集』別

冊第三を底本とし、初版本（松月堂、明治一八〇一―一九年）を参照したとある。なお、柳田泉氏による岩波文庫に、初出と『逍遙選集』の異同についての注記があるので、参照されたい。なお、本稿は、『小説神髓』（松月堂、明治一八年四月）を底本としている。

本稿は、岩波文庫『小説神髓』をもちながら、そのままでは理解しにくい初学者を主に念頭において訳したものである。

小説の種類

小説をその主意から見て区別すると、二種類ある。いわく、勧善懲悪、いわく、写実^①がすなわち、これである。勧善懲悪小説は、英語では、「ダイダクチック・ノベル^②」と称して、もっぱら、奨励と懲罰とを主眼として、登場人物を創作し、脚色を構成し、世の中を諷刺し、戒めようと努めるものである。曲亭馬琴以後の著作は、大体この種のものと思われる。勧善懲悪小説にも、自然と二種類の違いがある。一

つをほめそやす小説といい、一つを悪くいう小説という。ほめそやす小説は、仁義礼智等の八の行ないを基本として、それとなく全編の伝記を作り、その行ないが尊ぶべきで仰ぐべきものであることを示して、読者に自然とこれを慕う心を起こさせて、人の知らないうちに良い道に導くことを期待する。馬琴が仁義などの八つの行いを伝記にして『八犬伝』を綴り、智、仁、勇を人になぞらえて『朝比奈巡鳥記』を編んだことは、皆この主意に外ならないだろう。悪くいう小説は、全くこれに反して、暴虐非道の行為を記述し、もしくは、不義不孝のありさまを表わし、あるいは痴愚が笑うべきことを写し、あるいは醜い行いが恥じるべきことを描いて、それによって訓戒しようと努めるものである。曲亭翁の、『夢想兵衛の物語』⁴、式亭三馬の『浮世床』、『浮世風呂』をはじめとして、福内鬼外の戯作類は、大体このたぐいと思われる。そうではあるが、馬琴の著作のようなものは、だいたいほめそやすこととけなすこととを兼ねている。とくに晩年の作にあつては、褒めること、けなすことを自在にしたものがある。『美少年録』⁶のようなものは、その典型である。また、けなす方法も二種類あつて、厳正であることは、馬琴の『美少年録』のようなものがあり、あるいは、滑稽であつさりとしていて、一読して人を笑わせる鬼外のような戯作に似たものもある。

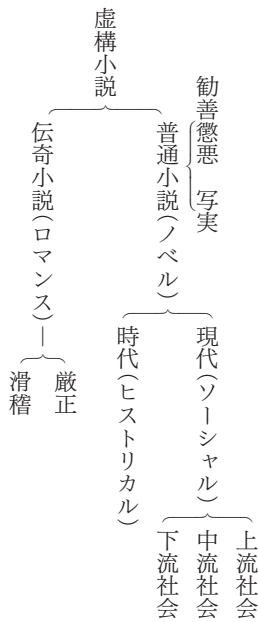
写実小説(アーティスティック・ノベル)は、いわゆる勧善懲悪小説とは、全くその性質を異にしたものであつて、その主意は、ひたすら世の中のありさまを写し出すことに外ならないのだ。だから、人物を虚構するにも、その脚色を作るのにも、前に述べた主眼を現わして、

ひたすら虚構の人物を架空の世界の中に活動させて、真に迫らせようと努めるものである。たとえば、詩人が、詩歌をつくつて、実際の風景を写し、真情を吐露し、画家が、絵の具によつて花鳥山水を描き、彫刻家が、鑿によつて人または獣の形を彫つてるように、もつぱら真に迫っていることを主として、趣向をもうけ、列伝を作り、人情世態を深くきわめているものである。だから、この種の小説では、無理に褒めたりけなしたりする意味を寓して脚色を作ることをしてしないで、ひたすら世間にあるだろうような人情と態度だけを描き出して、まるで本物のように見えさせることを望み、努めて天然の美しさをうつし、自然が雄大であることを描き、読者を知らないうちにその虚構世界に遊ばせて、そうして隠妙不可思議なこの人生の大機関を覚らせるに至るものである。だから、写実を主意とする小説には、求めなくても、けなしたり、戒めたりする方法を備えている。暗に、人を教化する力がある。とくに、こうした考えで実際の世の中の人情や世態を写し出すならば、その物語は(かりにその事柄と人物のようなものは全く虚構のものであつても)、まるで現実の世の中の風潮を示し、世の好みの赴くところを知らせ、世の感情の傾きを覚らせる、一つの生きた歴史ともいふべきなので、すぐれた眼を持った人がこれを読むならば、あの迂遠な伝記をひもとき、時代違いの事情を探つて、原因と結果の法則を求めるとは違つて、また、二三回の経験によつて反省し、覚るような利益の少ない方法に勝つて、その効能を感じることは、はたしてわずかではないのだ。けれども、わが国の小説作者は、このあたりの理屈を悟らないからだろうか、ひたすら、笠翁⁸の言葉为师として、

小説といえ、必ずしも題材を身近なものにとつて、意図を勸善懲悪に発しなればいけないことのように思つて、奨め、戒める鑄型を作つて、無理に趣向をその中で工夫しようと思つたのは、まったく愚かなことではないか。

さて、また小説をその篇中に記載した事柄の性質によつて区分すると、さらに、二種類の小説となるのである。曰く、昔(時代)もの、曰く、現代(世話)もの、すなわち、この二つである。時代物語は、過ぎ去つた出来事を基本として、または、歴史上の人物を主人公として、それによつて一篇の脚色を作り、現代物語は、現代の人情と世のありさまを材料として、それによつて趣向を作るものである。我が国の小説は、だいたい昔の物語、すなわち、時代小説でないものはまれである。馬琴の著作は、いうまでもない。俗に、読み本と呼び慣れた漢字交じりの半紙本は、だいたいこのたぐいのものである。そして、紫式部の『源氏物語』、『為永春水』の人情本などは、総じて現代小説の部類といふべきである。

次に掲載するのは、小説の種類を示す略図である。



なお、この他にも政治小説、宗教小説、戦争小説、航海小説等、そ

の数は、いくつもあるが、要するに、現代小説、時代小説の二つの小説を細かく分けたに過ぎないのだ。政治小説は、もっぱら政治世界の現象を写しだして、暗に党の意見を広めようとする政治家の手によつて書かれたものが多い。ビーコンフィールド卿の『春鶯囀』、矢野文雄先生が編集・翻訳をされた『経国美談』などは、その例である。宗教小説は、もっぱら布教をその目的とするものである。その例とするべきものは、まだわが国には存在しないが、仮にその例をあげていうならば、靈驗記、利生記のたぐい、また、山東京伝が晩年になつて著した物語のたぐいは、この仲間に入るだろう。戦争小説は、戦争中の事実をもとに趣向をもうけ、または、架空の人物をつくりだし、戦争中の状況などを写すものである。我が国の戦記、軍記などとは異なつてゐる。航海小説(ネイバル・ノベル)は、架空の人物、架空の出来事を虚構して、航海の状況を述べるものである。我が国の巡島記のたぐいとその性質は似ていて、(内実は)違ふものである。思うに、わが国の巡島記のたぐいは、だいたい奇異譚の部類にであるが、航海小説は、これに反して、主に航海中の状況を述べた普通の小説と変わらないものであるからだ。

前の略図で表示したように、現代小説、すなわち、世話小説にも、自然と三種類の違いがある。上流社会のありさまを主に写したものが、中流社会を物語の中心としたものがあり、あるいは、下流社会の状況をもつぱら描き出そうと努めるものもある。ただし、三種類ともお互いに関わつていて、決してはつきりとした区別はないのだが、その主人公の性質によつてこの区別をも生ずるのである。我が国には、

現代小説と称するべきものは、極めてそのたぐいは少ないので、例をあげるのに苦しむが、まず、だいたいをここに示すならば、為永春水の人情本は、概して下流社会のありさまを写し、時に、上流社会のありさまも写している。山東京山¹⁸⁾の草双紙なども、その名を時代物語に借りることはあるが、その実際は、中流以下の世態を写した現代小説に外ならないだろう。松亭金水の翻案した鏡山の情史²⁰⁾、ならびに、千代萩の情史などは、上流社会を写したのか。紫式部の『源氏物語』、大式三位の『狭衣物語』などは、もっぱら上流のありさまを写した良しい現代小説と称するべきである。

〔注〕

- (1) 写実・原文は「摸写」。後出するように、原語は、artistic すなわち、芸術的の意。
- (2) ダイダクチック・ノベル・didactic novel 教訓的小説。
- (3) 『朝比奈巡島記』・曲亭馬琴作。木曾義仲の子、朝夷三郎の一代記を描いた読本。文化一二〇文政一〇年(一八一五〜二七)刊。
- (4) 『夢想兵衛の物語』・曲亭馬琴作。莊子の胡蝶の夢になぞらえて、夢想兵衛の夢の体裁をとった読本。文化七年(一八一〇)刊。
- (5) 福内鬼外・平賀源内(一七二八〜一七八〇)の別号。
- (6) 『美少年録』・近世美少年録。曲亭馬琴作。毛利元就と陶晴賢の戦いになぞらえて、二人の少年を描こうとした読本。文政二(一八二九)年〜天保三(一八三二)年刊。中絶。
- (7) 人生の大機関・原文「大機関」に「おほからくり」のルビあり。人生の複雑な仕組、因果関係のこと。
- (8) 笠翁・中村注釈は、李漁(一六一〇〜一六八〇)、劇作家、小説家とするが、いかがであろうか。注釈者は、リットン (Blower Lytton、一八〇三〜一八七三) を当てたい。リットンは、イギリスの政治家、

小説家と教訓的な作風で知られる。代表作に、『ボンペイ最後の日』がある。なお、リットンの著作を調査中だが、当該の言葉は、現在のところ未確認。

- (9) 読み本・原文は、「裨史」に「よみほん」のルビ。
- (10) ビーコンスフィールド卿・ベンジャミン・ディズレーリ (Benjamin Disraeli、一八〇四〜一八八二) のこと。イギリスの政治家、小説家。
- (11) 『春鶯囀』・Coningsby (一八四四) の翻訳。明治一七年、関直彦訳。
- (12) 矢野文雄・矢野龍溪(一八五〇〜一八八二)。ジャーナリスト、小説家、民権運動家。
- (13) 『経国美談』・矢野龍溪の政治小説。一八八三〜一八八四。ギリシャ史に題材をとり、テーベの歴史を作者の政治的理想を込めて描く。
- (14) 霊験記、利生記のたぐい・神仏の利益を記した書物。「利生記」は、特に、佛の利益に関わる。
- (15) 山東京伝が晩年になって著した物語のたぐい・『忠臣水滸伝』(前編、一七九九、後編、一八〇二)などを指す。
- (16) 航海小説は、架空の人物、架空の出来事を虚構して、航海の状況を述べるものである。例えば、スチープンソンの『宝島』(一八八三)を考えると分かりやすい。
- (17) 巡島記・馬琴の『夢想兵衛胡蝶物語』(一八一〇)のたぐい。主人公がさまざまな風変わりな島をめぐる物語を記したものの。
- (18) 山東京山・(一七六九〜一八五八) 山東京伝の弟。「草双紙」は、『大晦日曙草紙』(一八三九〜一八五七)を指すか。大晦日の庶民の生活をえがいている。
- (19) 松亭金水・(一八七五〜一八六八) 人情本作者。為永春水の弟子。
- (20) 鏡山の情史・歌舞伎の演目。局の岩藤が、中老の尾上に辛く当り、草履で打つ。その恥辱に堪えかねた尾上は、自害するが、その下女が敵討ちをするというもの。ただし、松亭金水による作品は、未確認。
- (21) 千代萩の情史・歌舞伎の演目。奈河亀輔作。仙台騒動に材をとったもの。主君の子を助けるために我が子が犠牲となった乳母正岡を描いた「御殿の場」が名高い。

(22) 大貳三位・(九九九)一〇八二 紫式部の娘。かつて、『狭衣物語』の作者とされた。現在は、六条齋院宣旨(？)一〇九二)が作者と考えられている。

(さかい たけし 日本文学科)

二〇一三年十一月十三日受理